

令和 8 年度 学校経営計画表【附属中】

1 学校の現況

学校番号	中学 2		学校名		県立太田第一高等学校附属中学校					課程		一		学校長名				上田 英雄			
教頭名	[全日制] 益子 諭					[定時制] 青木 基泰					[附中] 鐵 めぐみ			事務（室）長名				椎名 実			
教 職 員 数	教諭	12	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手		0	事務職員	5		技術職員等	7	計	35			
生徒数	1 年				2 年				3 年				合計				合 計 クラス数				
	男		女		男		女		男		女		男		女						
	19		20		20		20		19		20		58		60		3				

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・ R7 生徒アンケート「教員は、わかりやすい授業をしている。」肯定的評価 90% ・ R7 生徒アンケート「教員は、熱心に授業を行っている。」肯定的評価 92% ・ R7 保護者アンケート「教員は、生徒に評価方法について事前に説明し、適切な評価をしている。」肯定的評価 79%	・ 学習内容の習熟度に応じた学習や少人数指導等の充実を図る。 ・ 授業改善を学校全体で推進し、生徒一人一人の学びを保障するための指導方法の工夫・改善を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながる授業づくりを行う。 ・ 評価基準の明確化と事前説明の徹底と、生徒自身の自己評価と振り返りの場を設定する。
進路指導	・ R7 生徒アンケート「教員は、将来の進路や職業について、悩みの相談にのってくれる。」肯定的評価 86%	・ 生徒が安心して相談できる体制の構築と個別支援の充実を図る。 ・ 定期的な個別面談を実施する。

	・ R7 保護者アンケート「教員は、いろいろな職業や生き方があることを教えている。」 肯定的評価 69%	・進路資料や職業情報の提示、生徒や保護者対象のキャリア講話を計画的に実施する。 ・進路指導やカウンセリングに関する校内研修の充実を図る。
生徒支援	・R7 生徒アンケート「教員は、生徒の悩みの相談にのっている。」 肯定的評価 94% ・R7 保護者アンケート「教員は、生徒に対し公平に接している。」 肯定的評価 87%	・個に応じた支援と相談体制の充実を図る。 ・複数担任制を活かした、多面的な見取りと情報共有の定例化を図る。 ・不登校生徒や不登校気味な生徒に対する初期対応の充実と、関係機関との連携を強化する。
特別活動	・ R7 生徒アンケート「本校の生徒会活動、委員会活動やホームルーム活動は活発である。」 肯定的評価 86% ・ R7 保護者アンケート「学校の行事は、生徒主体で行われており、活発である。」 肯定的評価 99%	・生徒の主体性を育む自治的活動の充実を図る。 ・行事や日常活動の企画を生徒が考える機会を設定したり、委員会活動や生徒会の取組を提示・発信したりすることで、生徒の主体的な活動の活性化を図る。
働き方改革への取組	・教職員の意識は向上しているが、年間を通して月の超過勤務の合計が 45 時間を超えている教職員が数名みられる。 R7 時間外在校等時間 月平均 28.66 時間	・分掌の中を精選し、業務分担や協働体制を確立することで、業務の効率化と平準化を図る。 ・超過勤務時間を削減し、教職員の健康維持を心掛け、ワークライフバランスを改善する。

4 中期的目標

- (1) 7 年目を迎えた中高一貫教育校の特長を活かし、中高連携の強化と 6 年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現に努める。
- (2) 探究を軸とした学びの素地を身に付け、身の回りの事象を自分事として捉え、主体的に課題を解決する能力の向上に努める。
(探究を軸とした学びの推進)
- (3) 予測困難な社会に目を向け、他者と協働しながら、主体的に諸課題を解決することができる資質・能力を育成する。(シティズンシップ教育の充実)
- (4) 多角的な相互理解の機会を提供し、自己理解を深めるとともに、多様な価値観を受容するためのグローバルな視点で、思考・判断・表現できる資質・能力を育成する。(ダイバーシティ教育の推進)
- (5) 教職員の協働体制を構築し、業務の効率化と平準化を図る。

5 本年度の重点目標

	重点項目	重点目標
(1)	・ 6 年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現	・ 中高 6 年間の発達段階に応じた学びの連続性を確保し、知識の習得にとどまらず、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開する。 - 生徒による授業評価結果「先生は、授業の目標や課題をわかりやすく設定している。」3.8 (R7 3.7)「先生は、生徒の活動場面を適切に設けているなど、教え方を工夫している。」3.8 (R7 3.5) - 学校評価保護者アンケート「教員はわかりやすい授業を展開している。」肯定的評価 92% (R7 90%)
(2)	・ 探究を軸とした学びの推進	・ 「探究プロジェクト」や「中高連携探究発表会」を活用し、他の県立中学校の生徒や高校生との意見交換を活発に行い、主体的に課題を解決する力を身に付ける。 ・ 様々な活動において、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を身に付ける。 - 生徒アンケート「教員は、生徒同士で話し合ったり、教員に質問したりする機会を設けている。」100% (R7 99%)
(3)	・ シティズンシップ教育の充実	・ 建設的な話し合い活動や討論・討議の充実を図る。 ・ 生徒会活動を活発化させ、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力の育成に努める。 - 生徒アンケート「教員は、生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考える時間を設けている。」100% (R7 99%)
(4)	・ ダイバーシティ教育の推進	・ 東京グローバルゲートウェイ (中1)、ブリティッシュヒルズ (中2)、オーストラリア海外留学体験 (中3) の経験を通して、英語力とコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解を深める。 ・ 多様な価値観を尊重し、他者と協働して課題解決に取り組む力を育成する。
(5)	・ 1 か月平均超過勤務時間数の削減	・ 協力体制を再構築し、業務の効率化を推進するための具体的な方策と工夫を行うことにより、1 か月平均超過勤務時間数を 26%以下にする。 - 教職員の超過勤務時間 45 時間以下 100%